

令和6年度 西が岡小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

＜目指す児童像＞

- (1) 明るく元気な子ども（体力・気力）
- (2) よく考えて学習する子ども（創造力）
- (3) 心豊かで思いやりのある子ども（責任・思いやり）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し、子どもの主体性を育て、希望に満ちた明るく楽しい学校づくりをするために、全職員が和と協力、熱意、そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組み、新しい時代の教育に向けた持続可能な活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

＜目指す学校像＞

- (1) 楽しく充実したみんなと生きる学校
- (2) 子どもと教師が共に育つ学校
- (3) 地域とともに歩む笑顔あふれる学校

＜合言葉＞ 元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 安全安心な学校づくり

「生きる力」を育み、児童が生き生きと活動し安全に学べるようにするために、日常の安全管理に努め、児童の安全確保に努めるとともに、全ての児童が安心して生活を送ることができるよう、いじめ等の未然防止や安全教育の充実に努める。

(2) 自己肯定感を育む学級経営と教育活動の充実

一人一人の存在を互いに認め合い、学習や生活の基盤として居心地がよく安心感ある学級づくりに努めるとともに、自信と意欲を育み、よさを十分に発揮できる教育活動の展開に努める。

(3) 確かな学力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、個別最適な学びや協同的な学びを推進し、学ぶことの楽しさや成就感を体感させ、基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ態度の育成に努める。

(4) 豊かな心の育成

道徳教育や体験活動、読書活動等を通して「生命や人権を大切にする心」「思いやりの心」や創造性を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。

(5) 児童指導の充実

児童理解に努め、信頼関係を構築し、全職員で方針を共有して行動力や判断力を育成するとともに、保護者との連携を図り、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。

(6) 体力の向上と保健安全教育・食育の充実

進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り、健康・体力の向上に努める。

(7) 小中一貫教育の推進

学校園として認め励ます指導を通して自尊感情を育み、学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。

(8) 特別支援教育の充実

多様性と人権を尊重し、特別支援教育の視点を大切にした教育環境の醸成に努める。

(9) 教職員の資質の向上

人権尊重の理念を重視した教育活動を実施し、教育的愛情を持って児童に接するとともに個々の教員が資質向上に努め学び合いを高めて、児童や保護者から信頼される教職員集団を目指す。

(10) 地域とともにある学校づくり

家庭や地域と連携し地域の教育力を生かした学校教育の充実を図り、情報発信の充実に努め、連携・協働した取組を推進する。

(11) 働き方改革の推進

働き方の見直しを図り、心身ともに健康に専門性を発揮して効果的な教育活動に専念するための業務の適正化を図り、新しい時代へ向けた持続可能な教育体制を目指す。

【宝木地域学校園教育ビジョン】 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します
～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、同施行規則、小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「栃木県教育振興基本計画 2025」、宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」、「令和6年度指導の重点」等の諸計画が示すところに従い公教育の立場を堅持し、本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。
- (3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。
- (4) 各教科、特別な教科道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のほか、・学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成していくことができるよう、各教科の特質を生かしつつ各教科間で学習内容を関連付けるなどの教科等横断的な視点で教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 落ち着いた学校生活のもと認め励ます教育を推進し、縦割り班活動を中心とした体験活動、読書活動などを通して豊かな心と主体性を育む。
- (2) 学習指導
 - 児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努める。
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びの実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。
- (3) 児童生徒指導
 - 道徳教育や学級経営の充実を図り、他者と協同してよりよく生きようとする児童を育てる。
 - 具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
 - 体育、保健、食育指導の連携をもとに、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識し行動する児童の育成に努める。
- (5) 働き方改革の推進
 - ICTの活用、校内協働体制の確立、地域と学校の連携・協働の積極的な推進等により教育の効率化を図るとともに、教職員の出勤時刻の管理を通じた勤務時間の適正化を推進する。

6 自己評価

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	表中数字：上段はR6年度 下段はR5年度 太数字：前年度比 ±5ポイント								
1ー(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答⇒児童90%以上	① 児童が自分の考えを広めたり深めたりするような学習場面で1人1台端末を活用し、主体的に必要な情報を利用して学習に取り組めるようにする。 ② 「聞き方・話し方・姿勢」を掲示し、意識付けを図る。 ③ 「家庭学習のすすめ」を自主学習ノートに貼り、それを見ながらどんな内容にするかを自分で決めて、進んで学習できるようにする。 ④ 「西が岡スタイル」による「分かる、できる」を実感できる授業の展開に努める。 ⑤ 学校図書館や市立図書館の「巡回図書」、1人1台端末を活用し、児童の情報活用能力の育成を図る。	B	【達成状況】A1 (○)								
				<table><tr><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>92.9</td><td>83.3</td><td>86.1</td><td></td></tr><tr><td>87.9</td><td>91.3</td><td>85.6</td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が92.9%で目標を達成している。 - 状況に応じた学習形態の工夫により、進んで学習に取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 - 引き続き生活や学習の場面を通して、互いに認め合う学級経営を進め、協働的に学ぶ姿勢を醸成する。 1人1台端末の活用場面を工夫する。 - 担任と学校図書館司書が連携を密に取りながら、外部図書館からの資料活用を積極的に図っていく。	児童	教職員	保護者	地域	92.9	83.3	86.1	
児童	教職員	保護者	地域									
92.9	83.3	86.1										
87.9	91.3	85.6										
1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」の肯定的な回答⇒教職員85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科、探究活動の過程に体験活動を位置づけた総合的な学習の時間の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や思いやる心などを涵養する。 ② ボランティアによる読み聞かせや読書週間を計画的に実施し、豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ③ 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 ④ 「命の授業」や「人権の授業」を授業参観等で公開したり、親子学習で取り上げたりして、保護者への啓発を行う。 ⑤ 人権週間に標語や作文を書いたり、人権について考える集会活動を実施したりすることで人権意識を高めていく。	B	【達成状況】A2 (○)								
				<table><tr><td>児童</td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域</td></tr><tr><td>88.3</td><td>91.7</td><td>92.2</td><td>86.7</td></tr><tr><td>89.9</td><td>100.0</td><td>93.0</td><td>94.4</td></tr></table> - 教職員の肯定的回答が91.7%で目標を達成している。 - 縦割り班活動を通して、上級生が下級生に対して優しく接し、思いやりの心が育っている。 【次年度の方針】 - 道徳科の授業を充実させ、児童の思いやりの心を涵養する。 - 縦割り班活動の充実を図り、引き続き、異学年の交流活動を通して、思いやりの心を育てていく。 - 引き続き、人権週間を充実していくとともに、各学級での帰りの会で互いのよさを認めるなどの日常的活動を実践する。	児童	教職員	保護者	地域	88.3	91.7	92.2	86.7
児童	教職員	保護者	地域									
88.3	91.7	92.2	86.7									
89.9	100.0	93.0	94.4									

	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 様々な授業において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。 ④ キャリアパスポートや振り返りカードを活用して、振り返りを行い、各種行事における達成感を味わえるようにする。	【達成状況】A3 (○) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>91.1</td><td>75.0</td><td>77.2</td><td></td></tr> <tr> <td>85.9</td><td>95.7</td><td>82.6</td><td></td></tr> </table> ・児童の肯定的回答が91.1%で目標を達成している。 ・学級活動や帰りの会で互いに認め合う場を設定し、多くの児童を称賛することができた。 ・学校行事や児童会活動において、児童一人一人が目標に向かって粘り強く取り組んでいた。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートや各種振り返りカードを活用して、活動の振り返りを行い、達成感を味わえるようにする。 ・今後も児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 ・学校の教育活動で児童が満足感・達成感を感じた様子を保護者に伝え、児童の成長を共有していく。 ・教職員が、日々の児童の取組や成長を認める意識をさらに高め、様々な場面での児童のよさを伝え合う。	児童	教職員	保護者	地域	91.1	75.0	77.2		85.9	95.7	82.6	
児童	教職員	保護者	地域												
91.1	75.0	77.2													
85.9	95.7	82.6													
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 休み時間の遊び方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的な安全指導に努める。 ② 生活チェックシートを活用して、担任や養護教諭、栄養士等による個別指導を充実する。 ③ 「おべんとうの日」には、栄養のバランスを配慮した献立が立てられるように、発達段階に応じて、ワークシート等を活用して支援する。 ④ 委員会活動を通して、上級生を中心に児童が自ら健康や安全について考える場を設定し、学校全体で生活場面に実践する機会を設ける。	【達成状況】A4 (△) <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> <tr> <td>91.1</td><td>70.8</td><td>86.8</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>92.9</td><td>95.7</td><td>87.2</td><td>100.0</td></tr> </table> ・教職員の肯定的回答が70.8%で目標を達成していない。 ・校庭の過ごし方や廊下、登下校の歩行の仕方について、今後とも指導が必要である。 ・委員会活動を通して、全校児童に健康・安全に関する呼びかけを行ったことは有効であった。 【次年度の方針】 ・学校での生活のルールについては、児童が安全な行動を意識し、落ち着いた生活が送れるよう指導の徹底を図り、児童の生活状況を踏まえ、継続して指導していく。 ・業間や昼休みにおける校庭での遊び方や用具の使い方等について、委員会活動などを通して呼びかける機会を設ける。 ・今後も、お弁当の日は、ワークシートを活用し、家庭と連携しながら栄養バランスに着目した食育が進められるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	91.1	70.8	86.8	100.0	92.9	95.7	87.2	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
91.1	70.8	86.8	100.0												
92.9	95.7	87.2	100.0												

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 宮・未来キャリア教育に関わる活動を生活科、総合的な学習の時間等の年計へ位置づけし、系統的に学習する。 ② 実践的な活動を通して自分の役割を意識し、問題を主体的に解決し、生活をよりよくしようとする意識を高める。 ③ 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。 ・2分の1成人式（4年） ・夢いっぱい教室（6年） ・町探検（2年） ④ 学級活動や委員会活動で、キャリアパスポートへの活動記録を累積させ、自己の成長を自覚させる。	【達成状況】A5（○） <table border="1" data-bbox="1034 168 1473 286"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.3</td><td>91.7</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>88.6</td><td>87.0</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が89.3%で目標を達成している。 ・学級活動や委員会活動を通して自分の役割を意識し、課題を主体的に解決し、生活をよりよくしようとする意識が高まった。 ・学級活動や学校行事で、キャリアパスポートへの活動記録を累積したことで、自己の成長を自覚することができた。 【次年度の方針】 ・地域人材やボランティアを活用して、夢いっぱい教室、町探検などの活動を継続し、様々な仕事について知ることで、職業観を養う。 ・引き続き、学級活動や学校行事で、キャリアパスポートへの活動記録を累積していく。	児童	教職員	保護者	地域	89.3	91.7			88.6	87.0		
児童	教職員	保護者	地域												
89.3	91.7														
88.6	87.0														
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒教職員90%以上	① 低学年から、学級担任とALTによるT・Tによる指導を進め、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めるとともに、高学年においては段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ② 職員研修で英語の教材開発やICTを活用した指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。	【達成状況】A6（△） <table border="1" data-bbox="1034 840 1473 958"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77.9</td><td>87.5</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>76.1</td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が87.5%で目標を達成していない。 ・ALTや学級担任による継続的な指導により、楽しさを味わえるような活動を実践しているが、英語でのコミュニケーション意欲については個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・今後もALTと協力して授業を組み立てていくとともに、指導法の工夫や改善等を図るための職員研修を計画し、授業力の向上を図る。 ・朝の校内放送でALTによる英語のメッセージを流したり、朝の会で日付や曜日、天気等について英語でやり取りしたりする等、英語でのコミュニケーションへの関心を高める。	児童	教職員	保護者	地域	77.9	87.5			76.1	95.7		
児童	教職員	保護者	地域												
77.9	87.5														
76.1	95.7														

	A7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを 知っている。」における 肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう自己研修に努める。	【達成状況】A7 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.0</td><td>87.5</td><td>62.7</td><td></td></tr> <tr> <td>85.2</td><td>87.0</td><td>74.3</td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が89.0%で目標を達成している。 ・各教科や総合的な学習の時間、ふるさと教室、校外学習等で、身近な地域や宇都宮市の良さに気付くよう働きかけてきた。 ・宇都宮の広報誌を授業に取り入れたり、農業体験での米作りを通して地域の食物に興味をもたせたりすることで、宇都宮市の特色について関心を高めるよう働きかけてきた。 【次年度の方針】 ・宇都宮市の良さについて教師自身が理解を深め、授業に反映できるよう、自己研修や校内研修の場を設ける。 ・生活科・社会科・総合的な学習の時間での校外学習等において、身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導を継続するとともに、児童同士で紹介する中で理解を深める等一過性の学習にならないよう工夫する。 ・宇都宮学や校外学習について、また、その様子について学校HPや学年・学校だより等で積極的に情報を発信する。 ・読み語りボランティアと連携し、宇都宮の民話等を計画的に取り上げる。	児童	教職員	保護者	地域	89.0	87.5	62.7		85.2	87.0	74.3	
児童	教職員	保護者	地域												
89.0	87.5	62.7													
85.2	87.0	74.3													
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 児童は、デジタル機器や 図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学 習に活用している。」における 肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 「一斉学習」、「個別学習」、「協働学習」それぞれの学習場面において、デジタル機器を活用した効果的な学習指導に努める。 ② 児童が授業においてデジタル機器や図書資料を活用して、情報を収集・整理・発信する活動を充実させ、それらを活用する能力の育成を図る。 ③ 家庭学習においてタブレット端末の活用を図る。 ④ 学校図書館の環境整備に努め、授業学習内容に関連する図書資料を計画的に準備し、国語の教材や総合的な学習の時間の調べ学習等に役立てる。 ⑤ 朝の学習において読書の時間や読み聞かせなどの読書活動を計画的に位置づけたり、図書だよりを発行したりなどして児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】A8 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85.1</td><td>100.0</td><td>82.3</td><td></td></tr> <tr> <td>85.5</td><td>100.0</td><td>86.4</td><td></td></tr> </tbody> </table> ・児童の肯定的回答が85.1%で目標を達成している。 ・情報教育主任や学校図書館司書を中心にデジタル機器や図書資料を活用し、授業を効果的に行ってきた。 ・外部図書館を利用し、単元の学習内容に応じた図書資料を活用したり、一人一台端末を活用して収集した情報を併用した学習を行ったりした。 ・AI型個別学習ドリルを活用するとともに、一人一人の習熟の程度に応じた知識・技能の習得に向けて、家庭と連携し、個に応じたデジタル機器の活用に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・ICT機器の活用について、ICT支援員と事前に相談し、ICTを使う場面を積極的に取り入れる。 ・学校図書館司書と連携し、図書資料の一層の活用を呼びかけるよう、教員と学校図書館司書の話合いの場を積極的に取り入れるようにする。 ・職員研修でデジタル機器を効果的に活用した学習への理解を深め、授業力の向上を図る。	児童	教職員	保護者	地域	85.1	100.0	82.3		85.5	100.0	86.4	
児童	教職員	保護者	地域												
85.1	100.0	82.3													
85.5	100.0	86.4													

2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒教職員75%以上	① 各教科・総合的な学習の時間等における環境に関連する学習内容を通して、児童の発達段階に応じた教材分析や授業づくりを行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育成する。 ② 各教科で学習した取組を「SDGs17の目標」に関連付けながら実践できる機会を学級活動や委員会活動等で意図的に設ける。	【達成状況】A9 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.6</td><td>79.2</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>85.5</td><td>73.9</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が79.2%で目標を達成している。 ・学校図書室で「SDGs コーナー」を設置し、持続可能な社会について話題にする機会を設けたり、各委員会でSDGsを意識した活動や発表を行ったりするなど関心を高めてきた。 ・新しくなった教科書において「SDGs」について深く調べる単元においては、教室に「SDGs」に関する図書コーナーを設置し、関心がもてるような環境作りに取り組んだ。 【次年度の方針】 ・各教科で学習した取組を「SDGs17の目標」に関連付けながら実践できる機会を学級活動や委員会活動等で意図的に設ける。 ・児童の発達段階に応じた教材分析や授業づくりを行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育てていく。 ・「SDGs17のすべての目標が自分たちにも関係している」と感じられるよう、難しい言葉から分かりやすい表現に変換し、児童へ伝えながら意識を高めていく。	児童	教職員	保護者	地域	88.6	79.2			85.5	73.9		
児童	教職員	保護者	地域												
88.6	79.2														
85.5	73.9														
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① 校内支援会議を計画的、または必要に応じて開き、個に応じた具体的な支援について協議し、共有して組織的な体制で対応する。 ② 全教職員が様々な視点から児童を観察し、特別支援教育コーディネーターを中心に支援の必要な児童について状況の把握・情報の共有を行い、かがやきルーム担当者と連携しながら学級での支援を充実させる。 ③ SCや他の外部機関と連携し合って、個に応じたよりよい支援の在り方について考え、指導に生かしていく。	【達成状況】A10 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>95.8</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>100.0</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が95.8%で目標を達成している。 ・全職員で協力して、児童の実態に応じて組織的な体制で対応し、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、校内支援会議の計画的な実施と協議内容の周知徹底、かがやきルーム担当者との日常的な情報交換、SCや他の外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への適切な支援をしていく。 ・各学級における特別支援教育の視点を大切にした教育環境の醸成に努める。	児童	教職員	保護者	地域		95.8				100.0		
児童	教職員	保護者	地域												
	95.8														
	100.0														

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】

全体アンケート

「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答
⇒児童90%以上

- ① 教育相談を年間2回実施し、児童の実態の把握と問題行動の早期発見に努める。
- ② 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施するとともに、保護者にも公開し啓発に努める。
- ③ いじめ防止に関する資料や学校での取組を懇談会や学校便り、学校HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。

【達成状況】A11 (○)

児童	教職員	保護者	地域
97.2	100.0	81.6	93.3
96.6	100.0	86.6	94.4

- ・児童の肯定的回答が97.2%で目標を達成している。
- ・いじめ防止対策の取組について、保護者へ、各種便りやホームページなどで学校の取り組みを随時周知した。
- ・いじめが疑われる事案が発覚したときには、いじめ等対策委員会を早急に開催し、対応策を検討するとともに複数の職員で対応し、早期解決に努めた。

【次年度の方針】

- ・次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施する。
- ・いじめ防止に関する資料や学校での取組を、学校便りやホームページ等で保護者や地域に積極的に発信する。
- ・今年度に引き続き次年度以降も、児童に学校生活アンケートを実施し、教育相談等で改善を図る。

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

全体アンケート

「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答
⇒児童90%以上

- ① 児童の自己肯定感や安心感が高められるようソーシャルスキルやエンカウンター等の取り入れ、教師の言葉かけや雰囲気作りに努める。
- ② 職員会議後に不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施し、全職員が情報を共有する。
- ③ 電話連絡や訪問等で家庭との情報交換を密に行い、SCを活用する等の積極的な支援と児童一人一人の状況に応じた適切な働きかけを行う。
- ④ Q-U検査結果や教育相談等で実態を把握し、不登校未然防止に努めるとともに、不登校の発生時にはSCや児童指導主任を中心とした対策委員会を実施し、方針を共有し、全校体制で支援を行う。

【達成状況】A12 (○)

児童	教職員	保護者	地域
96.1	95.8	88.3	
97.6	100.0	90.0	

- ・児童の肯定的回答が96.1%で目標を達成している。
- ・月末の職員打合せ時には児童の情報交換会を行って、全職員で共通理解を図り児童に対応することができた。
- ・職員研修でQ-Uの分析や児童対応の仕方のスキルを学び、児童一人一人の状況に応じた支援を行うことができた。
- ・行きしぶり傾向や連続した欠席がある児童について関係者で支援会議をもち、方針や役割を明確にして対応し、不登校につながらないよう未然防止に努めた。

【次年度の方針】

- ・これまでに行った研修ツールを生かし、児童が学校に居がいのある環境を整えるとともに、児童の少しの変化に気づいて相談できるようにする。
- ・対応児童や家庭との連絡について、担任からの働きかけだけでなく、多様な支援策を考え、その1つとしてSCについてさらに周知し、利用促進を図る。

3－(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。 ② ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れたり、体験的活動の場を設定したりして、児童の意欲を高める。 ③ 年間4回実施するいじめ調査を効果的に利用し、必要に応じて児童と面談を行い、継続的に児童の実態の把握と問題の早期発見に努める。	B	【達成状況】A13 (○)											
3－(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化				<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>97.2</td><td>95.8</td><td>86.1</td><td>100.0</td></tr><tr><td>97.3</td><td>100.0</td><td>91.7</td><td>100.0</td></tr></table> - 児童の肯定的回答が 97.2%で目標を達成している。 - 学校行事や児童会活動を通して、児童の達成感や自己肯定感が高まってきている。 - ホームページや校内放送、デジタルサイネージ等を活用して、児童が活動する姿を積極的に発信した。 【次年度の方針】 - 学校 HP や各種たより等で児童の様子について、より積極的な周知を図っていく。 - ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れた学習を進めるに当たり、学習でのきまりを守れるようにしていく。 - コミュニケーションの取り方（言葉遣い・行動）を確認し、日頃からいじめの原因につながらないよう気にかけて生活するよう呼び掛けていく。 - 教育相談で得た情報について、関係者で迅速に共有を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。	児童	教職員	保護者	地域	97.2	95.8	86.1	100.0	97.3	100.0	91.7
児童	教職員	保護者	地域												
97.2	95.8	86.1	100.0												
97.3	100.0	91.7	100.0												
4－(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫・改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・西が岡スタイルの実践 ・一人一授業公開 ・授業改善チェックリストの活用 ・ヒントカードや教材提示の工夫 ③ 具体的な学習の取組の状況や研究の様子、要請訪問などについて、学びの広場で取り上げ、学校での研究の様子を保護者に知ってもらう機会にする。 ・「学習チャレンジ週間」の実施 ・「学びの広場」の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。	B	【達成状況】A14 (○)											
				<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>97.2</td><td>91.7</td><td>85.1</td><td></td></tr><tr><td>98.0</td><td>100.0</td><td>87.3</td><td></td></tr></table> - 児童の肯定的回答が 97.2%で目標を達成している。 - 算数における習熟度別学習や外国語のT.T、教科担任制の推進など、年間を通じて実践を重ねた。 - 基礎基本の定着と主体的な学びの推進を学校課題に掲げ、教材の工夫と授業の改善に取り組んできた。 - 児童の実態に即した指導法を検討し、実践することができた。 【次年度の方針】 - 引き続き、基礎基本の定着と主体的な学びに関する研究を行い、授業力向上を図る。 - 児童の実態把握を十分に行い、児童一人一人に応じた分かりやすく丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。	児童	教職員	保護者	地域	97.2	91.7	85.1		98.0	100.0	87.3
児童	教職員	保護者	地域												
97.2	91.7	85.1													
98.0	100.0	87.3													

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等について、教職員の負担軽減が図れるよう協力して取り組む体制づくりを進める。また、困難さを感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気を大切にしよう。 ② 全職員が職員会議や学年会での児童の情報交換を密にし、共通理解を図る。 ③ 朝の学習や給食指導の際には、担任以外も学級支援に関わる。	【達成状況】A15 (△) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>79.2</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が79.2%で目標を達成していない。 ・学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等について、情報共有が十分とはいえない状況であったため、協力体制が整わないことがあった。 【次年度の方針】 ・学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等について、ICTの活用等を充実させ、綿密に情報共有を進める。 ・様々な教育活動の実施にあたり、学校として教育活動の目的を明確にして教職員の協力体制づくりに努める。 ・朝の学習や給食指導の際に担任以外も学級支援に関わる等多様な支援を活発化する。	児童	教職員	保護者	地域		79.2				95.7		
児童	教職員	保護者	地域												
	79.2														
	95.7														
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員80%以上	① 職員研修等において働き方改革の意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、教職員一人一人が、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② ポータルサイトや学習情報システム等を活用して、業務を効率的に遂行できるようにする。 ③ 職員会議等の協議事項を精査して時間の短縮を図ったり、学校行事等の見直しを行ったりして、学校運営の改善を行う。 ④ 適正な時間での勤務が図られるよう各種行事や活動について、学年主任会や打ち合わせによる合意形成を図った上で、改善や見直しを行い、業務の効率化を図る。 ⑤ 日常の校内巡視は焦点化し、常時指導を改善していく。	【達成状況】A16 (△) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>70.8</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>69.6</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が70.8%で目標を達成していない。 ・職員会議において協議事項の一つ一つの内容に協議時間がかかり時間内で終わらず、項目を別日に振り分けることがあった。 ・月1度リフレッシュ週間を設けていたが、その週に臨時に協議等が入ることがあったため、なかなか予定通り早退勤ができなかった。 【次年度の方針】 ・職員会議の時間短縮を図るためにも、関係者の事前打合せや主任会、ICTの活用等で協議事項を明確にし、起案段階で綿密に検討する。また、会議前に資料を示し、協議内容の焦点化を図り、事前に目を通して意見を整理して会議に臨むようにする。 ・今年度、ワークフロー起案や打合せ簿のICT使用を開始した校務を見直し、他にもDX化できるものについて積極的に取り入れていく。	児童	教職員	保護者	地域		70.8				69.6		
児童	教職員	保護者	地域												
	70.8														
	69.6														

5- (1) 全市的な学 校運営・教育 活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」における肯定的回答 ⇒保護者80%以上	① 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施し、その様子を情報発信していく。 ・あいさつ運動 ・音楽朝会での発表 ③ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・宝木学校園「生活のきまり」 ・自主学習推進 ・学習のきまり	【達成状況】A17 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.6</td><td>87.5</td><td>83.5</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>91.5</td><td>87.0</td><td>90.9</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> ・保護者の肯定的回答が83.5%で目標を達成している。 ・あいさつ運動や音楽朝会での交流の様子を発信してきたため、地域学校園の取組は浸透してきている。 ・学校図書館だより等、全学年共通した情報発信を行うことができた。 【次年度の方針】 ・学校HPや各種たより等でより積極的に地域学校園に係る実践について情報を発信していく。 ・いろいろな学年での取組を周知し、入学時から9年間通して活動を広めていけるようにする。 ・地域学校園での学習のきまり等を合わせ、共通課題の解決により一層取り組んでいく。	児童	教職員	保護者	地域	94.6	87.5	83.5	100.0	91.5	87.0	90.9	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
94.6	87.5	83.5	100.0												
91.5	87.0	90.9	100.0												
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上	① PTAや地域協議会等と連携し、各教科・領域で充実した体験活動を推進する。 ・ふるさと教室（昔遊び・昔の暮らし） ・読み語り（陽だまりの会・下野民話の会等） ・学習会 ・農業体験（田植え、稲刈り） ・町探検、ミシンボランティア 等 ② 全学年で行政や企業と連携した出前授業を実施し、保護者にも積極的に参観を呼びかけていく。 ・工場見学（カルビー） ・人権教室 ・モノづくり教室（日産） ・上下水道局 ・薬物乱用防止 ・リコーダー教室 ・歯磨き教室 等	【達成状況】A18 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>93.2</td><td>87.5</td><td>90.9</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>93.3</td><td>95.7</td><td>96.9</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が87.5%で目標を達成している。 ・家庭や地域協議会等との連携を取り、教育活動を推進してきたため、充実した体験活動ができた。 ・地域の施設や人材との連携や行政や企業の出前授業等を積極的に実施した。 【次年度の方針】 ・今後も家庭や地域協議会と連携し、各教科等の授業のサポートや夏休みの作品のコンクール出品の取りまとめボランティア等、教職員の事務処理を支援するボランティア活動の内容を多様にしていくなど、学校運営の充実を図っていく。	児童	教職員	保護者	地域	93.2	87.5	90.9	100.0	93.3	95.7	96.9	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
93.2	87.5	90.9	100.0												
93.3	95.7	96.9	100.0												

6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答⇒教職員85%以上	① 毎月、校舎内外の施設、設備等の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 感染症予防対策、熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】A19 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>100.0</td><td>90.3</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td></td><td>100.0</td><td>94.2</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が100.0%で目標を達成している。 ・毎月、安全点検で危険箇所を把握し、会計年度任用職員（学校業務）や機動班が迅速に修繕に当たるとともに、必要に応じて業者に速やかに修繕を依頼した。 ・熱中症予防のために以下の対策をとった。 （スプリンクラー、冷房設備等、暑さ指数計） ・児童在校中には学校の門扉や出入り口の扉を閉じ、防犯対策を行った。 ・避難訓練を適切に実施し、振り返りを全校で共有し、安全への意識を高めた。 【次年度の方針】 ・児童在校中の校舎内外の施設を徹底していく。 ・新年度、速やかに引渡し訓練に関する児童の名前（児童引渡書）等を確認しておく。次年度も計画的に実施する。	児童	教職員	保護者	地域		100.0	90.3	100.0		100.0	94.2	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
	100.0	90.3	100.0												
	100.0	94.2	100.0												
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」における肯定的回答⇒教職員80%以上	① 児童がデジタル機器を活用して、情報を収集・整理・発信する能力を育成するため、デジタル機器等の積極的な活用を図る。 ② デジタル機器を利用した授業を積極的にを行い、ICT支援員を活用する等をして情報を共有する研修を行い、授業力向上を図る。 ③ デジタル機器の活用に関連する図書資料や研修資料を教職員間で共有したり、機器を計画的に準備など、環境整備に努める。	【達成状況】A20 (○) <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>91.7</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>95.7</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ・教職員の肯定的回答が91.7%で目標を達成している。 ・ICT支援員とT.Tで授業を行い、一人一台端末を様々な教科（場面）で活用することができた。 ・情報を収集する能力を育成するため、一人一台端末と図書を必要に応じて使い分けて調べ学習を進めた。 ・基礎・基本の定着を図るため、自主学習や宿題等でAIドリルを活用した。 【次年度の方針】 ・デジタル機器を活用した授業のアイデアを交流することにより、授業力向上を図る。 ・ICT支援員を活用し、デジタル機器を利用した授業を積極的に取り入れるようにする。 ・基礎・基本の定着を図るため、AIドリルの活用の仕方を工夫する。 ・引き続き、一人一台端末の故障機や予備機の管理を適切に行う。	児童	教職員	保護者	地域		91.7				95.7		
児童	教職員	保護者	地域												
	91.7														
	95.7														

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 代表委員を中心とした、あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・低・中学年の自主的な参加を推進 ② 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会で保護者や地域の方々に周知する。 ・家庭での習慣化 ③ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で定期的な指導を継続する。	B	【達成状況】B1 (○)	<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>92.2</td><td>87.5</td><td>95.2</td><td>86.7</td></tr><tr><td>93.9</td><td>91.3</td><td>85.7</td><td>94.7</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が92.2%で目標を達成している。 ・あいさつ強化週間中の様々な取組により、児童に挨拶の習慣が定着してきている。 ・児童は校内ではよく挨拶できている。 【次年度の方針】 ・教職員が進んで児童に挨拶などの声掛けを行い、児童に挨拶の習慣が身につくようにする。 ・あいさつ強化週間を通して、主体的に挨拶を行う習慣が身に付くようにする。 ・地域の方へのあいさつについて、具体的な場面を取り上げ、実践をとおして指導する。	児童	教職員	保護者	地域	92.2	87.5	95.2	86.7	93.9	91.3	85.7	94.7
	児童	教職員		保護者	地域												
92.2	87.5	95.2	86.7														
93.9	91.3	85.7	94.7														
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活している。」の肯定的回答 ⇒児童80%以上	① 全職員の共通理解のもと、朝会・全校集会で全校児童に話をしたり、発達段階に応じて各学級で指導したりして、基本的生活習慣の定着を図る。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備 ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 ・良かった点を各学級において帰りの会等で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。	B	【達成状況】B2 (○)	<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>90.7</td><td>70.8</td><td>89.1</td><td>85.7</td></tr><tr><td>94.9</td><td>95.7</td><td>85.4</td><td>88.9</td></tr></table> ・児童の肯定的回答が90.7%で目標を達成している。 ・4月に保護者にも「よい子の一日」をさくら連絡網で送付したことで、保護者のきまりに対する意識が高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の実態に合わせて、生活目標を立てて、毎日の振り返りを生かして児童にきまりに沿った生活をするをを意識させる。 ・「よい子の一日」や「生活目標」に照らし合わせて、ルールやマナーの遵守について放送等で呼びかけ、意識化を図る。 ・次年度も引き続き、業間や昼休みの校庭、校舎内の巡視を行い、児童の安全指導を行う。	児童	教職員	保護者	地域	90.7	70.8	89.1	85.7	94.9	95.7	85.4	88.9
児童	教職員	保護者		地域													
90.7	70.8	89.1	85.7														
94.9	95.7	85.4	88.9														

本校の特色・課題等	B3 教職員は、健康・体力面での適切な個別指導をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、健康・体力面での適切な個別指導をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・朝の1分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ ② 給食・保健委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。	B	【達成状況】B3 (○)	<table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr><tr><td>96.8</td><td>91.7</td><td>83.3</td><td></td></tr><tr><td>97.3</td><td>91.3</td><td>86.7</td><td></td></tr></table> ・教職員の肯定的回答が91.7%で目標を達成している。 ・スタンダードダイアリーの生活習慣チェックを活用し、児童が生活を振り返る機会を設けた。 ・児童の成長に合わせて机や椅子の高さを調整し、学習姿勢の改善に努めた。 【次年度の方針】 ・業間、昼休みの外遊びを推奨したり、朝の1分間運動に取り組ませたり、日常的に運動に親しませ、体力の向上を図る。 また、宇都宮市の元気っ子チャレンジへの取組を推奨する。 ・今後も学級活動等において、学校栄養士による栄養指導の充実を図る。 ・健康的な生活習慣について、家庭と連携して児童の実態に応じた声かけをしていく。	児童	教職員	保護者	地域	96.8	91.7	83.3		97.3	91.3	86.7	
	児童	教職員		保護者	地域												
96.8	91.7	83.3															
97.3	91.3	86.7															

B4 児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宿題や習ったことを復習するなど進んで家庭学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上		① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 - 音読と個に応じた宿題の徹底 - 発達段階や個に応じた自主学習の進め方の指導 - 家庭学習の時間・やり方・内容の提示 - 学級懇談等での保護者への啓発 - タブレット端末の活用 ② 自主学習の例を掲示して、よい取組を児童や保護者に知らせていく。 - 昇降口前の掲示（学習チャレンジ週間） - 終わったノートの教室内掲示 - リレー自主学習（全学年）	【達成状況】B4（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>83.3</td><td>75.0</td><td>65.9</td><td></td></tr> <tr> <td>82.5</td><td>91.3</td><td>68.2</td><td></td></tr> </tbody> </table> - 児童の肯定的回答が83.3%で目標を達成している。 「家庭学習のすすめ」の周知やリレー自主学習、学習習慣定着週間の実践、A Iドリル認定証の発行等により、家庭学習に意欲的に取り組んだことにより、苦手意識のある学習内容に対しても挑戦する児童が増えてきた。 - 各学級担任の声掛けや称賛により、家庭学習が習慣化してきたが、依然として個人差が大きい。 【次年度の方針】 - 懇談会や学校ホームページ等を利用して本校児童の学力に関する実態や課題を保護者に伝え、連携を深める。 「家庭学習のすすめ」の周知やリレー自主学習や学習習慣定着週間の実践、A Iドリル認定証の発行等の取組を継続し、児童や家庭の家庭学習に対する意識を高めるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	83.3	75.0	65.9		82.5	91.3	68.2	
児童	教職員	保護者	地域												
83.3	75.0	65.9													
82.5	91.3	68.2													
B5 縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、縦割り班活動を積極的に行い、思いやりの心を育てている。」の肯定的回答 ⇒教職員90%以上		① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。 - たて割り班による花はなタイム - 新体力テスト ・遊友タイム - 読み聞かせ ・お弁当の日 - 清掃活動 等 ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。 - 遊友タイム ・運動会 - 企画委員会との連携	【達成状況】B5（○） <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.7</td><td>95.8</td><td>97.6</td><td>100.0</td></tr> <tr> <td>92.9</td><td>100.0</td><td>95.0</td><td>100.0</td></tr> </tbody> </table> - 教職員の肯定的回答が95.8%で目標を達成している。 - 遊友タイム、清掃活動、新体力テスト等の異学年交流活動を実施し、上級生がリーダーになって主体的に行った結果、異学年の友達関係が広がった。 6年生が主体的に活躍する姿は多く見られたものの、花の水やり当番活動や児童会活動などで各学年の発達段階に応じた役割を担うことができた。 【次年度の方針】 - 目的を明確にして交流活動を行い、発達段階や各活動に応じた振り返りを行う。 - ワークシートについては、キャリアパスポートに綴らせ、自分の興味や関心、得意なことや苦手なこと、将来の夢や目標などを明確にさせることで自己理解を深められるようにする。	児童	教職員	保護者	地域	90.7	95.8	97.6	100.0	92.9	100.0	95.0	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
90.7	95.8	97.6	100.0												
92.9	100.0	95.0	100.0												

	B6 児童は、学習や仕事を通して、自己有用感を育み、自己肯定感を高めている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学級や学年、学校の役に立つように、進んで学習や仕事に取り組み、周りから認められている。」における肯定的回答 ⇒児童85%以上	① 各教科等の学習において、一人一人に役割があるグループ活動の機会を設定し、相互に助け合いながら役立つ経験を積ませる。 ② 特別活動（児童会活動、学校行事、学級活動（係活動）等）において、友だちや異学年児童との関わりの中で、自分の役割を果たすことにより活躍する機会を設ける。	【達成状況】B6（△） <table border="1" data-bbox="1034 168 1473 286"> <thead> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78.3</td><td>83.3</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> A - 児童の肯定的回答が78.3%で目標を達成していない。 - 各学級における学級活動において係活動を実施し、一人一人の児童に学級内の係の仕事任せ、自分の役割を果たす機会を設けた。 - 各教科等の学習において、グループ活動によって学習課題を解決する場面を設定し、話し合いをしてよりよいアイデアを出したり、協力して活動したりする機会を意図的に設けた。その結果、互いを認めたり、達成感を味わわせたりする様子が見られた。 【次年度の方針】 - 縦割り班活動、学校行事においては、高学年児童がリーダーシップを発揮し、児童が自治的な活動を行えるよう、指導・支援を行っていく。 - 各学年で実施する特別活動（学級活動、学校行事）において、一人一人に役割を持たせ、責任を果たしたり、友達と相互に協力したりする場を計画的に設定し、活動を通して互いに認め合い励まし合えるよう支援する。	児童	教職員	保護者	地域	78.3	83.3		
児童	教職員	保護者	地域								
78.3	83.3										

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本校では今年度の重点目標を設定するとともに、主に、学校運営、学習指導、児童指導、健康（保健安全・食育）・体力に関する具体的な取組を設定し、特色ある教育活動に取り組み、教育目標の具現化に向けて教育活動を進めてきた。

本項目には、本年度の諸計画に基づく各種の教育活動について、児童、教職員、保護者、地域住民（地域協議会委員）によるうつのみや学校マネジメント全体評価（アンケート回答）の分析、本校教職員による学校評価に基づき、前述の自己評価と合わせて本年度の教育活動について総括する。

1 西が岡小学校（以下、本校）と宇都宮市立全小学校（69校）（以下、市全小学校）との比較

(1) うつのみや学校マネジメントアンケートにおける肯定的回答率について

- ①本校の肯定的回答割合が、市全小学校の平均を上回っているもの
全63項目中25項目（39.7%）

【内訳】

- ・児童生徒 16項目のうち10項目（62.5%）
- ・教職員 22項目のうち4項目（18.1%）
- ・保護者 15項目のうち5項目（33.3%）
- ・地域住民 9項目のうち6項目（66.7%）

- ②本校の肯定的回答割合が、市全小学校の平均を下回っているもの
全63項目中38項目（60.3%）

【内訳】

- ・児童生徒 16項目のうち6項目（37.5%）
- ・教職員 22項目のうち18項目（81.9%）
- ・保護者 15項目のうち10項目（66.7%）
- ・地域住民 9項目のうち3項目（33.3%）

2 学校評価書における評価項目のうち、学校が設定した数値指標を基にした達成状況 各評価項目の数値指標を上回っているもの

3 学校経営の諸計画における成果と課題

(1) 学校運営についての評価

【成果】

学校経営に関連する評価項目において、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、17 項目中 9 項目が市全小学校の平均を上回った。

なお、項目 A17 の本校の児童及び地域住民の肯定的回答割合は、市平均を 5%程度、上回った。

○A17(学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。) (国+4.7%, 地+5.7%)

「小中一貫・地域学校園」の取組として、「小中合同あいさつ運動」や「中学校教員による小学校への乗り入れ授業」「中学校の生徒による合唱発表」等を実施したところであるが、教職員の肯定的回答率については市平均を下回った。今後も、9 年間を見通した系統的な教育課程の一層の充実を図るため、職員研修等をととしてカリキュラムの見直しを行うなど、教育活動の工夫・改善を進める。

○ さらに、宝木地域学校園における地域学校園全体計画に基づく各分科会の取組を充実させたり、学校一人配置職員（養護教諭、事務職員、学校栄養士、学校図書館司書、かがやきルーム指導員等）の分科会を開き、地域学校園間の連携と相互支援体制を充実させていきたい。

また、「地域と学校の協働による学校教育・学校運営の充実」に関する項目 A18 では、全学年で地域資源を活用した学習活動を行ったり、地域協議会との連携による読書活動の充実や学校の環境整備を行ったりしたことにより教育活動の充実が図られた。

【課題】

学校経営に関する評価項目において、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは 17 項目中 8 項目であり、特に、教職員及び保護者の肯定的回答率が市全体の肯定的回答率の平均を下回る項目が多い状況となった。

学校教育に関する喫緊の課題である「働き方改革」に関する項目 A16 では、市平均を大きく下回ったものの、本校における経年変化としては、昨年度より+1.3%となった。今後、統合型校務支援システムを活用し校務に関する事務処理の効率化を一層進め、児童と向き合う時間の確保に向けて働き方改革を推進していきたい。

A15 について、今後は、学校教育目標の実現に向けて、一層の学校経営方針の共通理解を図り、各種教育計画の立案や各教育活動の実施にあたっては、目標を明確にしていくとともに、全職員が協働して児童の育成にあたっていく。

A18 について、地域協議会と連携し、組織的に地域資源を生かした取組を実施してきた。また、企業や行政等の学校外の教育資源を活用した特色ある教育活動に取り組んできた。今後は、家庭との連携を一層強化し、学習面や生活面の課題解決に向けて方策を講じ、教育活動の充実を図っていきたい。

(2) 学習指導についての評価

【成果】

学習指導に関連する評価項目において、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、17 項目中 5 項目が市全小学校の平均を上回った。本うつのみや学校マネジメント全体評価については、児童、教職員及び保護者の評価が全体的に低く、各種学力調査等の結果からも、学校における学習指導及び児童の学力や家庭学習等については課題が残る結果となったと考える。

A7 について、児童の肯定的回答率が市平均を上回った。各教科等の学習で学校周辺の地域資源をもとにした校外学習を進め、社会科、総合的な学習の時間において、地域の伝統文化や文化財などについて学び、宇都宮のよさを学んできた。また、本校読み語りボランティアでもある「宮のかたりべ」の方による民話語りをととして、宇都宮市の郷土の文化や伝統に触れる機会を持つことができた。そうした学びをととして、児童は宇都宮市のよさを自覚できるようになってきたものと考え。

A8 について、教職員の肯定的回答率が 100%となった。各学級の授業や児童会活動において一人一台端末を利用し、児童が友達の考えを互いに理解したり、個人の考えを表現したりするためのツールとして活用してきた。

また、図書の活用については、各学級ともに計画的に図書室を利用し、図書に触れる機会を保障したことや、学校図書館司書による創意工夫した取組等の結果、肯定的評価につながったと考える。

【課題】

学習指導に関する評価項目において、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは17項目中12項目であった。特に、以下の2項目については、肯定的回答率が70%台の数値となった。

A6（児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。）児童 77.9%

A9（児童生徒は、持続可能な社会について関心を持っている。）教職員 79.2%

A6について、ALTや学級担任による継続的な指導により、楽しさを味わえるような活動を実践しているが、英語を使ったコミュニケーションに対しての意欲については個人差が大きい。今後は、必要性のある双方向的な会話を取り入れた学習活動の工夫をしたり、さらなるALTの活用や校内の外国語に関する言語環境の充実を図ったりして、児童が外国語に対して興味や関心を高めるような工夫・改善を図っていきたい。

A9について、各教科等の学習内容で取り扱う持続可能な社会に関する内容について、教科の学習のねらいを達成するとともに、自分とのつながりや持続可能な社会の担い手として必要な知識やどのような社会を作っていけばよいかなどの思考活動を取り入れながら、持続可能な社会への理解を広げたり深めたりしていく。

(3) 児童指導・健康指導についての評価

【成果】

児童指導・健康指導に関連する評価項目において、本校の各評価者の肯定的回答割合と市全小学校の各評価者の肯定的回答割合の平均を比較した結果、29項目中11項目が市全小学校の平均を上回った。

A3について、児童の肯定的回答率が市平均を上回ったものの、教職員の評価は市平均を大きく下回り、児童と教職員の評価に乖離が見られた。教職員は、児童が物事に粘り強く取り組めるよう状況に応じて児童のよさを認め励ましたり、児童の自己肯定感を高める指導を心掛けたりした。そのことにより、児童は自分のよさを自覚して自信を持ち、何事にも粘り強く取り組もうとする心が育ってきたものとする。一方、教職員については、学校の教育活動において、児童自らが強い意志をもって何事にも進んで取り組む態度について一層の成長が必要であると考えている。児童のレジリエンスを高め、たくましい心を持った児童の育成に向けて、学校全体で課題意識を共有して児童の育成に取り組んでいきたい。

A11（教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。）については、児童、教職員、保護者、地域住民の肯定的回答率が市平均を上回った。学校では、「いじめ」の早期発見をねらいとしてアンケートや教育相談を年間を通して計画的に実施し、児童の状況把握に努めるとともに、「いじめ」に関係するような状況を把握した際には、学校長のリーダーシップのもと、速やかにかつ組織的に対応し、問題行動の解決に当たってきた。また、関係する保護者とも連絡を密にし、学校と家庭が連携し、児童が安心できる環境づくりに尽力してきたことが評価されたと考える。

B1（児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。）については、保護者の肯定的回答率が市平均を+11.7%大きく上回った。校内における「あいさつ運動」をとおして、すすんであいさつをする児童の育成に取り組んできたことにより、元気にあいさつできる児童が増えてきた。

【課題】

児童指導・健康指導に関する評価項目においては、市全小学校の肯定的回答割合を下回ったのは29項目中18項目であった。なお、以下2項目の本校の肯定的回答割合は、全ての評価者の肯定的回答率が市平均を下回った。

A2（児童生徒は、思いやりの心をもっている。）
(児)2.3%, (教)4.3%, (保)1.1%, (地)9.6%)

B2（児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。）
(児)1.8%, (教)18.9%, (保)2.2%, (地)8.5%)

2項目ともに全ての評価者からの評価が市平均を下回ったことから、学校、家庭、地域の連携が求められる。

今後は、児童の生活の状況や課題と考えられる児童の状況や児童の健全育成に向けた方策について、共通理解を図るとともに、学校教育における教職員の取組、家庭教育における保護者や家族の取組、地域における地域の教育力を生かした取組について、それぞれの立場から役割を果たしていけるよう、学校が児童の健全育成に向けた情報発信を進めていきたい。

A4について、教職員の肯定的回答率が市平均と比較して低い状況となった。校舎内における怪我により保健室を利用する児童が少なくないことから、児童の規範意識を高めながら、落ち着いた生活が送れるよう指導していく。また、「保健だより」、「食育だより」を定期的に発行したり、健康診断の結果を保護者に通知したりし、児童の健康面に関する情報を各家庭に周知し、生活様式や健康的な生活の仕方についての改善等について、家庭との連携を一層を図っていく。さらに、児童が自ら健康への関心を高める活動を工夫する

とともに、保健委員会や給食委員会の取組や体育的行事に合わせた各種検定、元気っ子チャレンジを実施し、児童の運動への意欲を高めていきたい。

7 学校関係者評価

【児童の健全育成について】

- 児童に対しては、学校に休まずに登校すること、友達と仲良したり優しく接したりすること、給食を残さずに食べることなどを願っているところであり、特に、礼儀については大切であるとの意見をいただいたことから、学校としては、引き続き、児童が行きたくなる学校づくりや不登校予防に向けた指導・支援を進めるとともに、食育や道徳教育を推進していきたい。

【あいさつについて】

- あいさつについて、委員によって、児童から元気にあいさつが返ってくるとの肯定的評価がある一方で、さらに学校による指導が必要であるとの評価をいただいた。評価を踏まえ、登下校時における地域内での児童のあいさつについては、自分から進んであいさつすることについて課題がある状況であるので、地域の方に対してのあいさつや礼節などについて、引き続き指導していきたい。

【安全指導について】

- 休日における様子から、自転車に乗る際にヘルメットをかぶっていない児童がいることが気になるとの意見をいただいたことから、交通安全教室や学級活動等における安全指導において、自転車の正しい乗り方や自分の身を守るためのヘルメットの着用を徹底することを指導をしていきたい。
- 学校敷地内の車の乗入れについては、特に児童の下校の時間帯に北門から来賓駐車場側への自家用車の進入を規制しているところである。自家用車の進入禁止用のバーの取り扱いについては、迎えの保護者や業者等に児童の安全を第一に考えて敷地内の運転をするよう、引き続き、校内への乗入れ・校内からの退出時の利用方法について周知していきたい。

【地域との連携について】

- 学校と地域の関係性が緊密で、地域による児童の見守り等が十分になされており頼もしく、また、安心できるとの意見をいただいた。引き続き、地域との連携による児童の健全育成や安全確保を進めていく。
- 田植えや稲刈り、ふるさと教室等、地域の学習ボランティアとの関わりをもった多様な学びの機会についての継続や、地域協議会による学校西側の菊の花壇の整備やウサギの世話ボランティアなど、学校の教育活動に協力することにやりがいを感じるとの意見をいただいた。引き続き、地域とともに地域の人材の活用を図っていきたい。

【一人一台端末の取扱いについて】

- 本校に限らず、児童がタブレットを毎日持ち帰ることについて、児童の体への負担について心配であるとの意見をいただいたことから、引き続き、必要最低限の教科書類を持ち帰らせ、その他の教科書等の学用品については学校に据え置くことで、児童の身体面への負担を減らすよう配慮を続けていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校教育目標「人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する」の実現に向け、諸計画に様々な取組を位置づけて教育活動を進めてきた。

本年度進めた教育活動に対して、「うつのみや学校マネジメント全体アンケート」による評価によれば、肯定的回答割合が市内全小学校の平均を上回っているものが、全63項目中25項目（39.7%）となった。

本校の肯定的回答率が市の肯定的回答率より上回った項目について、昨年度から今年度への経年変化を見ると、児童については項目数の増加したが、教職員、保護者、地域住民については、項目数が減少した。

特に、教職員と保護者の評価については、市の肯定的回答率を下回った項目が多いことから、それぞれの評価者の視点に立って課題となる事項について、本年度の教育活動の成果と課題を検証し、次年度の教育活動に生かしていきたい。

《学校運営》

本年度は、「落ち着いた学校生活のもと認め励ます教育を推進し、縦割り班活動を中心とした体験活動、読書活動などを通して豊かな心と主体性を育むこと」を重点目標として、児童が、安全・安心な学校生活を過ごせるよう、基本的な生活習慣の指導やいじめ等の未然防止の充実に努めてきた。

また、学校における働き方改革について、「ICTの活用、校内協働体制の確立、地域と学校の連携・協働の積極的な推進等により教育の効率化を図るとともに、教職員の出退勤時刻の管理を通じた勤務時間の適正化を推進すること」を重点目標として、業務の効率化を図った。

- ・ 「地域とともにある学校づくり」を推進し、学校安全に係る登下校時の見守り、豊かな心の育成に係る読書活動の推進、キャリア教育に係る「夢いっぱい教室」、「田植え・稲刈り」、「ふるさと教室」による社会科や総合的な学習の時間の学習等、地域人材や地域資源を活用し、地域協議会との連携・協働による体験的な学習を実施した。
- ・ 今後は、「宇都宮学」や各教科等のねらいを達成するとともに「宇都宮の良さ」を実感できるような学習に視点を当てた学習活動を進めていきたい。また、学校HPや各種たよりを活用し、郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土などについての学習の様子を家庭と共有し、家庭と連携して郷土への愛情と誇りを育んでいきたい。
- ・ 縦割り班活動による異学年交流を通して、豊かな人間性や社会性を育むとともに、自ら主体的・協働的に学ぶ意欲や態度を育成していく。
- ・ 地域人材や企業・行政等の外部人材と協働して取り組む教育活動の充実を図り、各教育活動における児童の学習の様子を学校HPや各種たより等で保護者や地域に周知することで、今よりもさらに保護者や地域住民の学校理解を促していく。
- ・ 働き方改革の推進については、教職員が児童生徒と向き合う時間を十分かつ適切に確保するとともに、授業や授業準備等に集中することができるよう、校務支援システムの効果的な活用を進め、会議時間の縮減、職員間や学校と保護者間の情報伝達の効率化を図ったり、日課の工夫による時間の創出等を進めた。
- ・ 勤務時間の適正化を図るため、勤務時間を意識した働き方について取り組んできたが、十分な成果が出るまでには至らなかった。

今後、組織的に勤務時間を意識した働き方について、一層の意識改革を進めるとともに、業務の精選、積極的な校務分掌の見直し、地域との連携した教育活動を一層進めるなど、多様な取組を検討していきたい。

○ 令和6年度宝木地域学校園小中一貫教育年間計画に基づき、宝木地域学校園教育ビジョン「『いきいき宝木』心豊かな宝木っ子の育成」を目ざし、小中合同あいさつ運動、本校音楽朝会での中学校合唱コンクール優秀学級による合唱の鑑賞、小中相互乗り入れ授業等の交流連携事業を実施した。

小学校では、中学校生徒との交流を通して、あいさつの向上が促進されたり、より高い目標に向かって努力しようとする態度の向上が図られたりした。

また、中学校教員による乗り入れ授業を通して、中学校の学習や生活に対して見通しを持ったり、学習への関心を高めたりすることができた。

一方、令和6年度に作成した宮っ子心の教育・道徳教育関連表と一覧表の活用については、効果的な活用について、次年度に研究していく。

《学習指導》

本年度は、「児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努めること」や「個別最適な学びと協働的な学びの実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努めること」を重点目標として確かな学力の育成に努めてきた。

- ・ 基礎的・基本的な学習内容について、授業で学習した内容が分かると考えている児童は多いものの、進んで学習に取り組む態度に課題がある状況である。

「西が岡スタイル」を取り入れた授業の方法や技術の改善を図りながら、学習意欲のほか、児童に求められる資質・能力の育成を目指した授業や児童が自ら「問い」を持ち、主体的に学びに向かう授業について教職員の授業力の向上に向けて研究を進めていきたい。

- ・ 家庭学習の状況について、教員から指定された学習内容については、きちんと取り組む児童が増えてきたものの、自ら課題を設定し、多様な学びを展開するような自主的な学習に取り組むことについて課題が見られる。

引き続き、学び方を指導したり、家庭学習の状況に対して適切にフィードバックをしたりするなど、家庭における学習習慣の定着や主体的な学習態度の育成に向けて指導・支援をしていく。

- ・ 各教科等のねらいを踏まえた一人一台端末を用いた学習活動については、端末を活用する技能が十分身につけていない児童も見受けられる。今後、各教科等の学習において、調査活動、思考活動、協働活動、制作活動の活用場面において効果的に活用することを通して、子供同士がつながり、自律的に課題解決に向かう学習者

の育成を目指していく。

- ・ 児童会活動の委員会活動において、高学年児童が一人一台端末を活用して全校生向けの啓発動画を作成し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、自主的、実践的に取り組む姿が見られた。次年度以降も、特別活動のねらいを踏まえた活動を進めるとともに、情報活用能力の育成も図っていききたい。
- 宝木地域学校園小中一貫教育に基づき、教育相談部会では、「心ほかほかプロジェクト」、特別支援教育部会では、かがやきルームや特別支援学級間の情報交換やリモートによる小中交流会、交流連携分科会による小中相互乗り入れ授業、学校図書館分科会による学校園図書だよりの発行など、各部及び分科会の各種共通実践や情報交換を計画的にすすめることができた。

《児童指導》

本年度は、「道德教育や学級経営の充実を図り、他者と協同してよりよく生きようとする児童を育てること」や「具体的な活動を通して『明るいあいさつ』『正しい言葉遣い』『決まりを守る態度』の育成に努めること」を重点目標として、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努めてきた。児童指導を進めるにあたっては、児童理解に努め、児童との信頼関係を構築し、全職員で指導や支援の方針を共有して行動力や判断力の育成に努めてきた。また、保護者や関係機関との連携を図り、児童を取り巻く環境全体を把握し、多角的な支援を行うことで、児童の自己肯定感を高め、社会性を育むことに努めた。また、関係者全員が同じ目標に向かって協力することで、児童の安心感を高め、健全な成長を促してきた。

- ・ 学校における落ち着いた生活態度の育成を目指すにあたっては、まず、児童理解を深めることや児童と教師の信頼関係の構築すること、さらに、児童が自らの行動を律し、社会性を身に付けられるよう、自己指導能力の育成を重視するといった児童指導の方向性を教職員が共通理解する機会を計画的に設けていく。
 - 学習指導の中で、落ち着いて学習に取り組む態度や、他者と協力する態度を育成したり、道德教育や特別活動を通して、規範意識や社会性を育んだりするなど、教育課程と連携した方策を講じていく。
 - 学校全体で共通のルールやマナーを定め、徹底することで、落ち着いた学校文化を醸成していく。また、児童会活動や委員会活動を通して、児童の自治的な活動を促し、主体性を育んでいく。
 - 個々の児童の状況に合わせて、適切な指導や支援を行ったり、カウンセリングや教育相談を通して、児童の悩みや不安を受け止め、解決に向けた支援を行うなど、個別指導の充実を図っていく。
 - 保護者との連携を密にし、家庭と学校が一体となって児童の成長を支援したり、必要に応じて、専門機関と連携し、専門的な支援を行ったりしていく。
- ・ いじめや不登校などの問題に対して、早期発見・早期対応を進めるため、日常的に児童の様子を観察したり、計画的な教育相談を実施したりして、児童が安心して相談できる体制を構築していく。また、SCやSSWと連携し、多様な支援体制で児童の問題に対応していく。
- ・ 課題となる行動が見られる児童に対して、一人一人の児童の成長をきめ細やかに支援してきた。今後も、困難さを抱える児童に対しては、必要に応じて校内のケース会議で適切な支援策を検討するとともに、全職員が共通理解のもと、組織的に児童の心理面（自信・自己肯定感等）、学習面（興味・関心・学習意欲等）、社会面（人間関係・集団適応等）、健康面（生活習慣・メンタルヘルス等）の発達を支援していきたい。
- ・ 「あいさつ」について、学校内で指導してきたところが着実に児童の変容につながった。ただし、地域での児童のあいさつの様子は、学校での児童の状況と比較して課題が見られることから、家庭や地域と協働し、さらに児童の健全育成に取り組んでいく。

《健康（保健安全・食育）・体力》

本年度は、「体育、保健、食育指導の連携をもとに、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識し行動する児童の育成に努めること」を重点目標として、体力の向上と保健安全教育・食育の充実に取り組んできた。

- ・ 健康や安全に気を付けて生活することについて、学校での生活の様子については、まだ十分とはいえない面も見られる。特に、廊下の歩行については、時間を守って生活しようとする意識が働く一方で、急ぎ足で行動している姿が見られる。
 - また、地域において、自転車乗車時のヘルメットの着用や左右をしっかりと確認したり手を上げて横断したりするなどの交通安全に係る課題が見られたことから、家庭や地域と連携し、安全な行動の習慣化を図っていく。
 - 安全な生活について、児童が自ら考え、適切な行動を判断し、しっかりと実践できるよい組織的・計画的に指導していく。
- ・ 体力面や運動能力について、各種調査等の結果によれば、十分とは言えない状況である。外遊びの習慣化に

向けた休み時間の過ごし方の組織的に指導を行うとともに、引き続き、教科体育における運動に関わる資質・能力の育成を行っていききたい。特に、調査で明らかになった課題の克服に向け、学習活動の工夫を図っていく。

- ・ 学校における教科体育や1分間運動において、本校の児童の課題である運動能力・体力面の強化を一層図っていく。また、体力増強に向けて、新体力テストの実施と合わせて、運動の仕方や体の使い方について専門的な知見をもつ外部講師を招聘し、児童がより専門的に学ぶ機会を提供していく。
- ・ 学校給食については、衛生管理の徹底、食物アレルギーに関する対応が必要な児童に対しての確実な管理の実施等を進め、体制への安全な給食の提供ができた。
- ・ 今後とも、定期的な健康診断を適切に実施するとともに、児童の健康状態を把握する。また、健康診断の結果に基づき、必要に応じて個別の保健指導や健康相談を行っていく。
- ・ 安全で栄養バランスの取れた給食を提供するとともに、学校栄養士による給食指導を通して、食に関する正しい知識を教えていく。また、生活科や家庭科等で実施する食に関する体験学習（調理実習、農園活動など）を通して食への関心を高めるとともに、家庭と連携してより実践的な資質・能力の育成を図っていく。
- ・ 食物アレルギーを持つ児童への適切な対応を行うため、校内の指導・支援体制の確認、危機管理マニュアルに基づく緊急時の対応の共通理解と教職員が確実に対応できるようにするための研修の実施等を実施する。
- ・ 今後とも、日常的に校内の施設・設備の状況を確認し、安全な生活環境を保っていく。また、校舎内外の安全点検を定期的に行い、危険箇所を適切に改善していく。
- ・ 今後とも、様々な災害を想定した避難訓練を計画的に実施し、安全な避難経路や避難場所を確認する。また、学級活動等において、日常生活の中で自分の身の周りで考えられる危険な場所や行動を予測し、回避する方法を学ばせていく。

本年度の学校評価を受け、今後、「うつのみや学校マネジメントシステム」に基づき、令和7年度の学校経営や、学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する指導の充実が図られるよう、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」及び「令和7年度指導の重点」等との関連を図りながら学校課題の解決に向けた各種の教育計画を策定し、学校教育目標の実現を図っていく。